

「with コロナ、after コロナにおけるホストタウン交流の在り方について」議事要旨

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年11月26日(木)13:00~15:30
2. 場所：岐阜グランドホテル
3. 登壇者：
東京オリンピック・パラリンピック担当 国務大臣 橋本聖子
岐阜県知事 古田肇
岐阜市 ぎふ魅力づくり推進部 国際課ホストタウン推進室 副主査 武山慎也
中津川市 文化スポーツ部 生涯学習スポーツ課
オリンピック推進室 主事 矢野めい子
郡上市 スポーツコミッション事務局 ホストタウンリーダー 今園貴史
羽島市 企画部 市民協働担当部長 北垣圭三
岐阜県 清流の国推進部 地域スポーツ課 課長 大川敦
内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 平田竹男
フィールド・フロー株式会社 代表取締役 渋谷健
2016年リオオリンピック ホッケー日本代表キャプテン 木村未由希
2012年ロンドンパラリンピック ゴールボール日本代表 金メダリスト 中嶋茜
岐阜県立岐阜農林高等学校 後藤伶奈
岐阜県立岐阜農林高等学校 蒲原泉美
内閣官房 東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 企画・推進統括官 勝野美江
岐阜県 清流の国推進部 次長 丸山淳

(プログラム)

1. 開会挨拶(ビデオメッセージ) 橋本聖子大臣
2. 開催地代表挨拶 古田肇
3. 自治体発表、相手国関係者からのビデオメッセージ
岐阜市 武山慎也
中津川市 矢野めい子
郡上市 今園貴史
羽島市 北垣圭三
岐阜県 大川敦
4. コメント 平田竹男
5. パネルディスカッション 「with コロナ、after コロナにおけるホストタウン交流の在り方について」

ファシリテーター 渋谷健

パネリスト 木村未由希／中嶋茜／大川敦／後藤伶奈／蒲原泉美／勝野美江

6. 閉会挨拶 丸山淳

* 敬称略・順不同

1. 開会挨拶

岐阜県のホストタウンは、11の自治体が登録されており、相手国は12カ国におよび、活発な交流を推進していただいております。今日のシンポジウムでは岐阜県内のホストタウンの皆さまに、今だからこそできる具体的な交流に関する取り組みを紹介いたします。

2. 開催地代表挨拶

このシンポジウムを通じてホストタウン交流が進化し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京大会）の成功、さらには beyond2020 という言葉通り、未来に向かって国際交流の財産として発展していくことを心から期待しております。

3. 自治体発表、相手国関係者からのビデオメッセージ

①岐阜市

岐阜市はスロバキア、カナダ、コートジボワールの3カ国を相手国として、ホストタウン交流を行っています。

コロナ禍以降は応援校の子どもたちが相手国に向けたメッセージを作成し、先日駐日スロバキア共和国大使館へ送っています。さらには応援メッセージ動画を作成し、スロバキア選手団の皆さんにお送りすることも考えています。

②中津川市

中津川市は2018年3月、女子レスリングワールドカップをきっかけに、アメリカレスリングチームの交流が始まりました。

コロナ禍における交流としては、アメリカレスリングチームとの共同で Instagram を運営し、オリパラ関連のイベント動画を投稿するほか、お互いに応援メッセージを投げ合える場所として活用していくことを計画しています。

③郡上市

郡上市はコロンビアとマダガスカルの2カ国のラグビーチームとホストタウン交流を行っています。コロンビアラグビー連盟とホストタウン契約を締結したのは、2018年2月。地元の学生を中心としたアイデアで両チームの紹介番組をケーブルテレビで放送し、他の

メディアでも話題になるように郡上踊りとラグビーを融合させたポスターやちらしを作成しました。コロナ禍の今は、SNS や動画で交流を図っています。

④羽島市

羽島市はスリランカのホストタウンです。2017 年に正式にホストタウン登録されたことを機に、アジアジュニア陸上競技選手権大会時の選手との直接的な交流や陸上競技指導者の現地派遣などを行ってきました。

コロナ禍においては、子どもたちからスリランカの選手に向け応援メッセージ動画を送るなど、新しい形での交流を計画しています。

⑤岐阜県

県では地元の自治体と共同で、3 件ホストタウン登録させていただいています。

県としての取り組みは、カナダ陸上チームとの交流や地域での機運醸成づくりを 2 本柱として行っています。コロナ以後は SNS 公式アカウントを開設し、応援動画メッセージを投稿するなどしてカナダ陸上チームとの交流を深めると共に、地域住民への機運醸成を図っています。

4. コメント

コロナ禍でも交流が途絶えることなく、オンラインなどで交流が進んでいることに感動しました。

ホストタウンの取組により、そういった文化をその後も各地に残せることを改めて実感しました。これからずっとこの交流の輪を広げていただきたいと思います。

5. パネルディスカッション「with コロナ、after コロナにおけるホストタウン交流の在り方について」

①木村

選手にとってホストタウンの地域の方とつながれるというのは、すごくプラスだと思っています。リモートで遠く離れた日本の国と、自分たちを受け入れてくれる地域の人とつながれるというのは、安心感があります。

②中嶋

コロナ禍は視覚障害を持つパラアスリートにとって、競技に使う道具をはじめ、床や壁などもすべて触って確認するモノを消毒するので非常に大変です。

選手にとって、ホストタウンは大きな力をもらえる存在だと期待しています。そしてこの取り組みが、東京大会が終わった後でも、言葉や文化や習慣などのいろいろな違いを越えて、共生社会の実現への大きな一歩になると期待しています。

③大川

私の所属する地域スポーツ課は、常にスポーツによる地域活性化を考えています。ホストタウンの取組は、まさにその大きなきっかけとなる制度です。

コロナは地球規模の災いです。その一方で、コロナによりオンラインや SNS の力、可能性を感じることもできました。離れていても SNS なら全世界とつながることができるという気づきも得ました。

④後藤

岐阜農林高校はカナダとのホストタウン交流を進める岐阜県と連携し、昨年度、内閣官房主催の「GAP 食材を使ったおもてなしコンテスト」に出場し、岐阜県の GAP 食材を使ったおもてなし料理と、生徒自身による神前結婚式の披露を企画しました。この企画を岐阜県在住の外国人や関係者の皆さんに披露したところ、大変な好評を得ました。昨年度取り組んだメンバーは卒業しますが、カナダ選手へのおもてなし企画に込めた思いを後輩に託したいと思います。

⑤蒲原

私たち 2 年生は先輩たちのおもてなし企画を応援するとともに、GAP 認証の農産物の生産を行ってきました。来年、開催される東京大会のために、研究栽培している新品種「にじのきらめき」をお米メニューに使う予定です。

先輩たちの思いを引き継ぎ、カナダの陸上選手たちにホストタウンである岐阜県の魅力を伝えるべく、最高のおもてなしに向けてさらに準備を進めていきたいと思います。

⑥勝野

全国のホストタウンで、SNS や手紙などさまざまな手段を駆使して世界との交流が行われ、素晴らしい絆ができています。また、パラリンピアンを受け入れをきっかけに 100 近くの自治体が共生社会のホストタウンとして登録され、障害者のみならず住民にとって優しい街づくりをするという旗印を掲げています。

コロナ禍での交流では皆さんの創意工夫が重要です。日本ってすごいな、岐阜県すごいなと思わせるようなことを、どんどん仕掛けていただけるとありがたいと思います。

6. 閉会挨拶

このシンポジウムを通じて、with コロナという新しい環境下におけるホストタウン交流が全国に広がり、競技会が行われる都市のみならず、地方にも東京大会の活力というものをしっかり呼び込む契機となればと思っております。

以上